令和４年４月　定例記者会見（報告）

１　日　時　令和４年４月２５日（月）１３時～１４時

２　会　場　庁議室

３　出席者
＜報道機関＞山形新聞、読売新聞、毎日新聞、河北新報、ＹＢＣ

＜市＞市長、秘書広報課長

４　記者倶楽部からの質問事項
(1) 固定資産税の課税誤りについて、その後の進捗状況はどうなっていますか。

(2) 米沢駅のコワーキングスペースについて実証期間が終わり、本格整備に着手することになったようですが、今後の活用について、市長としての期待感を教えてください。

(3) ウクライナ難民の受け入れについて、米沢市独自で何か対応する予定はありますか。

(4) その他

５　内　容
〇秘書広報課長
　これより令和４年度４月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長から本市の市民バスに導入する IC カードのサービス開始に関する情報発信があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。
〇市長
　ご質問にお答えする前に、課長からお話がありましたように、IC カードの運用についての PR をさせていただきます。５月１４日から、市民バスや山交バスが運行する路線バスで交通系 IC カード、いわゆる Suica の利用が可能になります。バス車内やコンビニなどでチャージが可能で、小銭がなくても手軽にバスを利用できるようになります。ぜひ活用していただきたいという市からの情報の提供です。後でご質問などがあれば、担当まで聞いていただければと思います。
　今月の定例記者会見の質問内容は、３点ありました。１点目は「固定資産税の課税誤りについて、その後の進捗状況はどうなっていますか」というご質問でした。令和

元年度に発覚した固定資産税の課税誤りについては、令和元年度時点において法的時効の期限内であったものについて、還付処理の手続きを進めております。平成３１年、平成３０年については、それぞれ令和元年度、令和２年度に還付処理をしております。現在、平成２９年度、平成２８年度、平成２７年度の３か年について、修正作業を進めております。対象者には、本年１２月に３か年分まとめて返還金決定通知書を発送する予定です。対象者および金額は、１２月にお知らせをする予定です。平成２６年度以前の分については、昨年度から作業、検証しながら検討している状況です。１点目のご質問については以上です。

次に、２点目の「米沢駅のコワーキングスペースについて実証期間が終わり、本格整備に着手することになったようですが、今後の活用について市長の期待感を教えてください」というご質問です。コワーキングスペースの目的は様々ありますが、本市としましては現在、駅構内に開設することにしております。ビジネス利用客の利便性の向上や、駅機能の強化に取り組んでいきたいと思います。

また、創業支援施設としての機能強化も、これから整備を進めるうえで目的にしています。また情報集約や情報発信する機能も備えていきたいと思います。そういったことをベースにしながら、市全体の人、知恵、技術が循環するネットワークを構築していきたいと思います。このことにより、ものづくり振興および市民の発案型の事業を創出していきたいと思います。何よりも、居心地の良いコワーキングスペースを提供しなければならないと思います。また利用者と米沢の企業および人との出会いの場づくりということも、今後具体的に進めていきたいと思います。

また創業関連や、ESG（環境、社会、企業統治）関連のセミナーも現在開催しています。２回目が終わり、集中的に計画を立てながら進めています。ものづくり関連のプロモーションイベントなどの開催を今後検討していきたいと思います。

また期待感については、現在県や他市町村でもコワーキングスペースが設置されており、本市においても民間のコワーキングスペースの整備が積極的に進められております。他のコワーキングスペースと連携をすることで、人、知恵、技術が循環するネットワークの構築が図られ、地域での新たなビジネスモデルの創出により、市民の新たな働き方やライフスタイルが生まれてくること、新産業が創出されることを期待しています。今後コワーキングスペースで各種事業を積極的に推進し、駅を中心とした地域の賑わいと産業の付加価値の創出をより一層図っていきたいと思います。

このコワーキングスペースについては、当面米沢の持っている情報発信の最前線基地という思いで取り組んでいきたいと思います。米沢の様々な新たな良いものを発信し、それがビジネスに結びついていくということに、何よりも大きな期待を持っています。

次に３点目は「ウクライナ難民の受け入れについて米沢市独自で何か対応する予定はありますか」というご質問です。

結論から申し上げます。ウクライナ難民の方について、米沢市として受け入れを

推進していきたいと思います。他の自治体では、すでに受け入れを表明している自治体もあります。一番心配したのは、米沢においてウクライナの方が居住されているかということです。難民を受け入れても、そのコミュニティが確保できるかということが一番心配でした。もちろん言葉の問題もありますし、生活習慣など様々な問題があります。また場合によっては、受け入れた難民の方が子ども連れであるなど様々な条件が考えられます。米沢市としてそれに対応する整備を進めていかなければならないという思いもありました。

しかし、今日まで情報を集めてみると、現在米沢市にもウクライナの国籍を持っている方がお住まいになっています。カナダにお住まいでしたが、その方のご婦人が米沢市出身で、出産を機に米沢市の実家に里帰りしています。今後しばらくの間は米沢に留まりたいということです。そして、この方のご両親は現在ウクライナにお住まいです。そういったこともあり、少しずつですが難民の方のコミュニティが確保されるようになりました。これから受け入れを推進していく際に、就労支援や、医療関係では国民健康保険への加入、介護保険についても想定しなければなりません。子育て支援については、様々な保育園や支援制度の中でどう対応できるかを検討する必要があります。そのお子さんが小中学生であるならば、教育の対応も必要になります。住居については、市営住宅を予定しています。

受け入れを表明するにあたり、国や県との様々な調整があると思いますし、県に通達もきております。しっかりと連携してウクライナの難民の方が米沢で生活できる環境作りに取り組みながら、受け入れを進めていきたいと思います。言葉の問題や就職の問題については、それぞれ国際交流協会、商工会議所と連携を取っています。どのような難民の方にも、民間あるいは庁内のそれぞれの部で対応していきます。ご質問の内容については以上です。

〇記者

固定資産税の課税誤りが起きたとき、割り切った方がすっきりするとも思ったのですが、その一方で責任についてはどうお考えでしょうか。

〇市長

平成２６年度以前についても、今後どう対応していくか現在検討しています。国民健康保険税などの難しい絡みもありますので、そこを精査しながら検討していきたいと思います。

〇記者

コワーキングスペースを駅に作るということで、新幹線との絡みも目的の一つだったと思うのですが、新幹線との繋がりという点で市長はどうお考えでしょうか。

〇市長

コロナ感染も大変な時期で、新幹線利用について、大変な状況の中で駅舎のコワーキングスペースをどのように進めていくかという課題がありました。また、JR 東日本も非常に厳しい経営状況を強いられていました。新幹線で上野駅に米沢・置賜の物産を運んで販売するなど、JR 東日本に対する協力も進めてきました。米沢と JR 東日本

との絡みの中で１番大きな課題となっているのが、福島から米沢までのトンネル２３キロの工事を１日も早く進めていただきたいということです。このような米沢市の要望を実現していくためにも、JR 東日本との連携強化は一層強めていかなければなりません。
　まだ完成像は見えていませんが、実証実験を踏まえてコワーキングスペースを作り上げたいと思います。利用される皆さんにとって利便性が高く、米沢市の魅力を発信する最前線基地という位置付けで進めていきたいと思います。
〇記者
　ウクライナ難民の受け入れを推進したいということでしたが、この方針でいくということはいつ決まったのでしょうか。
〇市長
　正式に決めたのは今日の庁議です。私が勝手に受け入れますと言っても問題がありますので、先週金曜日に関係部長を集めて、この方針を発表しました。今日は庁議で部長全員を集めて、午後からの記者会見で受け入れを表明することを発表しました。
〇記者
　県に対して、受け入れを推進していく旨は報告したのでしょうか。
〇市長
　報告しました。出入国在留管理庁出入国管理部から県に通達、事務連絡がきているようです。受け入れ態勢を整備したところは、入管庁に申請をしなければならないということで、記者会見後に作業を進めたいと思います。外務省出身の SDGs 推進参与伊藤夢人さんはこの件にも関わってきましたので、そういったルートを通して申請をしたいと思います。
〇記者
　ニーズがあってのことだと思いますが、どれぐらいの人数を想定していますか。
〇市長
　市営住宅を予定しておりますので、希望があれば最大で５世帯くらいは受け入れることが可能だと思います。
〇記者
　様々な部署にまたがる話だと思うのですが、主として担当する部署は決まっていますか。
〇市長
　まだ決めていませんが、申請そのものは参与を中心に取り組んでいただきますので、参与の席が置かれている企画調整部がいいと思います。
〇記者
　市長が挙げられたウクライナの方にはもうお会いになったのですか。
〇市長
　土曜日に参与がお会いしました。私もそのご実家とは昔から親しくしているので、

本日電話で確認をしました。
〇記者
　そのご夫婦と娘さんは、しばらくは米沢で生活を続けるということで、ウクライナの方が少なくとも１人は米沢にいらっしゃるということでしょうか。
〇市長
　そうです。小さいながらもコミュニティができたということになると思います。
〇記者
　その方との関係の有無に関わらず、ウクライナから５世帯は受け入れられるということですね。
〇市長
　ウクライナにお住まいのご両親が米沢に来るという考えは今のところないようですが、もし米沢に来るということになれば難民ということになります。そこからどう広がっていくかはわかりませんが、ウクライナ関係者が０のところには来にくいのではないかと思っておりましたので、受け入れる態勢が少し整ったと思います。
〇記者
　他の質問ということで２つほど聞かせてください。高畠町長選挙がありましたが、新町長とこれまで接点はあったのでしょうか。
〇市長
　おそらく接点はないと思います。
〇記者
　当選が決まった後、これからのことを何かお話されましたか。
〇市長
　まだしていません。
〇記者
　寒河江前町長とお付き合いもあった中で、新町長とは１からの付き合いになると思いますが、これからの高畠町との関係について何かありますか。
〇市長
　置賜定住自立圏構想も３市５町で取り組んでいます。また、これからどのように地域の活性化、広域行政を進めていくかにおいて様々なケースが出てくると思います。３市５町がそれぞれの持ち味を活かしながら地域の活性化、あるいは福祉の向上に取り組んでいくということは、大きな課題だと思います。特に高畠町については、前町長が命をかけて取り組んできた新庁舎の建設、あるいは中央道へのスマートインターの開設も順調に進んでおりましたので、今後どうなるのか心配をしております。
　行政というのは、長が変わろうと継続しなければならないものは継続しなければならないという大前提があります。置賜の中心市米沢として、何かお手伝いやアドバイスできることがあれば、関わっていかなければならないと思っております。医療の問題も含めて、様々対応していかなければならないことが出てくると思います。
〇記者

福島の新しい道の駅が２７日に正式オープンとなりましたが、連携という良い面と、お客さんを取られてしまうのではないかという心配な面と両方あると思うのですが、道の駅オープンについて一言お願いします。

〇市長

インターの近くに道の駅を作るということは、非常に脅威を感じました。オープングセレモニーに招待されていたのですが、南原コミセンの竣工式があり、副市長に行っていただきました。無料区間ですので、米沢の方もあちらに行かれると思います。果樹王国なので、果樹が一番の売りになると思います。余計な心配だと思いますが、それぞれ果樹園の方々が直売所を持っておりますので、その兼ね合いがどうなっているのかという心配はあります。お客さんは分散すると思いますし、道の駅米沢にとってはプラス面よりも若干マイナス面の方が強いと思います。

〇記者

紅花の協議会が設立されますが、改めて今年の紅花への思いを教えてください。

〇市長

四季のまつりの総会も終わり、正式に夏のまつりに紅花まつりを加えさせていただきました。昨年第１回目の最上川源流紅花まつりを開催しました。その後の紅花の振興については、様々な市民の皆さんにご協力をいただいております。四季のまつりは、それぞれ米沢市と民間（商工会議所、観光コンベンション協会）の長が担当を受け持っております。７月に開催される紅花まつりは、米沢市で対応させていただきます。

いつ世界農業遺産に認定されるのか、県関係者とは常にお話をさせていただいております。そのことに１番関心を持って、準備をしてきたという経過もあります。今後、山上地区だけではなく周辺の南原地区などにも生産、栽培を拡大していきたいと思います。また、福王寺一彦先生のアトリエが南原中学校跡地にできましたが、その近辺にも紅花畑を造成するということも進めております。一歩一歩ではありますが、生産だけではなく紅花を基にした新たな商品開発にも力を入れていきたいと思います。

〇秘書広報課長

これを持ちまして令和４年度４月の定例記者会見を終了いたします。